

(別紙2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 10 月 15 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270202718		
法人名	社会福祉法人幼老育成会		
事業所名	グループホーム花ぞ野		
所在地	長崎県佐世保市折橋町 58-1		
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 15 日	評価結果市町受理日	平成 24 年 10 月 18 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所 一階
訪問調査日	平成 24 年 10 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

市内中心部の高台にあり、周りは閑静な住宅があり、休みの日や夕方には子供たちが遊び集う光景がいつも見られます。ALWAYS SMILE ~いつも笑顔で~を理念に利用者・スタッフ・地域の方々とのふれあいを通して、笑顔あふれる生活と施設の生活においても家庭的な雰囲気作りに心がけている。施設での季節ごとの行事、毎月の誕生会を行い、利用者・家族・地域の方々との交流を深めている。近隣の保育園児の来訪や、ボランティアのなどの来設もあり、歌や踊り等を披露されたり、カラオケ等での外出もある。併設の特別養護老人ホームとの連携によりリハビリ・医療的な面でのサポートもある。合同勉強会や委員会活動にも積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

外部評価では、両ユニットの管理者が一年前の異動で配属されていることもあり、「原点に戻る」、「利用者本位のサービス提供」を中心に理念が現場にどのように浸透しているか管理者と対話させていただいた。管理者は就任1年間を振り返って、利用者の状態に応じた職員の勤務体制の柔軟な対応は、事業所の優れている点である。半面、「職員間の格差と連携」についての取り組み不足に対する気づきは持たれているが、小言に終わり改善にまで至っていないこと、利用者のレベルの低下を理由に、職員中心のサービス提供がマンネリ化している点を反省されている。理念がサービスの提供で迷った時の拠り所になり、業務の振り返りの判断基準として全職員の視点あわせができることに改めて気づかれ、次のステップの方向性を確認された。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際、理念「AlwaysSmile いつも笑顔で」を全職員で唱和し、利用者様の尊厳を重視したアットホームな雰囲気でのケアの実践に努めている。	理念の意識付けや家族に置き換えた理念の確認はされているが、日々の方針や目標として具体化した内容の浸透や共有には至っていない。	理念の基本方針としての3本柱を、サービス提供業務に具体化して落とし込まれることが望まれる。又、業務の振り返りやケアに迷った時など、全職員共有の指針となることが期待される。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例のバーベキュー大会は近隣住民の方にも多数参加していただき、地域交流の場となっている。また、他の行事(おくんち等)を通じて交流を図ることができるよう努めている。	近所づきあいや関係作りを目指して、バーベキュー大会や法人主催のおくんちなど、交流の場面作りと親睦に努められており、現状維持で満足されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々に行事に参加して頂く事で認知症の人の理解、また支援のあり方を実際に目で見ていただく事で理解と協力を得ている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、GH内でのケア内容・行事・レク・職員研修等を報告し、参加者からの意見・要望は全職員へ伝達され、サービスの改善に取り組んでいる。	定期的な開催の取り組みの中で、行事予定・報告や活動・近況報告などを中心に参加メンバーからの意見等の聴取とその反映に努められている。	
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回行政職員に参加していただき、GHでの取り組み・現状等を報告している。この時に行政側からの意見や情報をいただいたり、随時連絡を取り合ったりしている。	勉強会等の講師の依頼があったり、講演会情報などの提供もあり「学び」をキーワードにした、連携の取組みをされている。	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての勉強会に参加し、理解を深めている。やむを得ない場合も最低限の実施とするという気持ちで取り組んでいる。</p>	<p>利用者一人ひとりのアセスメントの把握を大事にされており、そのことを踏まえた対応を心がけている。やむを得ない場合に関しても、代替の方法など常に検討する必要性と身体拘束を必要としない状態を作る方向を追求していく姿勢の重要性も周知されている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関する研修・勉強会に参加し理解を深め、自分や他職員の言動を見つめ直す機会を持つことで防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会などで制度について学ぶ機会を設け、職員の理解を深めるよう努めている。必要な利用者には地元の社会福祉協議会と連絡・協力を仰ぎながら支援にあたるよう努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時にご家族（主介護者）と管理者が契約書・重要事項説明書を読み合わせ、疑問点に対しては詳しく説明をし、その都度解決できるようにしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にてご家族からの意見・要望等をいただいている。また利用者様やご家族との日常会話の中で意見・要望等を把握できるよう心がけている。</p>	<p>面接時などの機会も大事にされている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月職員参加のケア会議を開催し、意見や提案を聞く場としている。</p>	<p>ケア会議の時に、参加職員に「1人一言」話す機会を設けられている。また、職員異動や利用者の新規入居など、状態に応じた職員の確保につながる取り組みとして、凡そ一週間様子を見ながら、柔軟に対応されている。</p>	

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々の得意分野を活かせるよう仕事を割り振り、やりがいをもって仕事に取り組めるよう努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GH連絡協議会や行政主催の研修・同法人内施設の勉強会などに職員が参加し、スキルアップを目指している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会に参加し、他施設GH職員との情報交換や交流を図っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所後まもなくは事前に収集した情報をもとに特に注意して様子観察を行い、利用者様との会話を通じて得た情報等を介護記録に残し、全職員が利用者様を理解できるようにしている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始時に管理者がしっかりとコミュニケーションを図り疑問点等があれば随時相談されるよう伝え、安心して利用していただけるようにしている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前に収集しておいた情報をもとに、全職員が必要とされている支援を把握し提供できるよう努めている。また、必要に応じて他事業所との連絡・調整を行っている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様ができることを一緒に に行う・生活の知恵を教えて いただくなどして、生活を共 に送っている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えています関係を築いている</p>	<p>行事参加や面会時にはご家族の方と楽しく過ごしていただけるよう雰囲気作り心がけ、家族の絆を大切にいただいている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>利用者様の希望に沿って、以前暮らしていた場所や美容室に行っていただく等できる限りの外出支援をし、これまでの関係が途切れないようにしている。</p>	<p>特別支援として、1人の利用者が「一日主人公の日」が設けられており、その方の要望や意向が全面的に叶えられる支援である。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事の席は仲良くなれそうな利用者様同士を近くにしたり、他ユニットへ訪問したりして、職員が間に入り利用者様間の交流が図ることができるよう支援している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご本人とは機会がある限り関係を継続し、必要時には支援できる体制をとっている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の声かけや傾聴により利用者様の意向を汲み取れるよう心がけている。ご本人からの聴き取りが難しい場合にはご家族からの話を伺っている。</p>	<p>初回アセスメント以外に定期的アセスメントをチェックされており、その都度の思いや意向の把握につながっている。又、全職員参加のケア会議で検討し情報の共有や把握につながっている。</p>	

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時の情報や利用者様・ご家族との会話の中でこれまでの暮らしについての把握を行い、GHでの生活環境を整えるようにしている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご本人の様子・バイタルサイン・職員同士の情報交換から現状と変化を把握し、それぞれに適した生活を送っていただくよう努めている。</p>		
26	10 <p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人の生活状況を把握した上で、ご家族へ近況報告・意向の確認を行い、その後職員が話し合い、それぞれの意見が反映された介護計画を作成している。</p>	<p>基本的に利用者担当職員を中心としたケアプランの作成・モニタリングの大体の取り組みがされており、ケア会議で全職員が検討し反映した意見をケアプランとして家族等に説明し、同意や要望を得られている。</p>	<p>事業所理念の基本方針等にリンクしたケアプランの作成・モニタリングが望まれる。利用者の主体性を重視しながらこれまでの生活の延長線や残存機能などを取り入れた介護計画・目標設定・モニタリングが、利用者のその人らしさに反映され「いつも笑顔で」につながっていることに期待したい。</p>
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>できるだけ細かく記録するよう心がけているが、口頭のみでの連絡になってしまうことがある。介護計画の内容に即した記録作成に努めている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者様のレベルに合ったサービス提供に心がけ、柔軟な対応で他事業所との連携も行っている。</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在のところ地域資源の把握は十分ではない。必要に応じて民生委員や地域の方と連携できるよう努める。</p>		
30	11 <p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関との連絡体制を整備し、24時間必要な医療・医者からの指示を受けられる体制を取っている。受診時、病院を指定された場合は希望にそえるよう調整している。</p>	<p>法人グループの花ぞ野診療所が窓口となり、定期的な往診により、利用者の日々の健康管理や指導を担われている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日看護師へ申し送りを行い、体調変化時も随時連絡し、看護職員との連携ができている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院後は定期的に病院へ連絡を入れ、治療経過や身体状況等を把握し、職員へ伝達している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>レベル低下が見られる時には医療機関との連携のもと、ご家族への説明を随時行い、今後の方針について早い段階から話し合いを行なっている。</p>	<p>利用者や家族の意向を聞いて、医療面での適切な対応は専門性につなぎ、事業所でできる精神的負担の軽減など家族も範疇に治めた支援体制づくりと、その都度の話し合いを大事にした姿勢である。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応についての勉強会に参加し、知識・技術の習得に取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練や消火機器の使用法点検を行い、災害時に備えている。</p>	<p>夜勤者は業務に入る前にホース取り扱い操作の点検で日々訓練されている。又、自然災害に関しては想定内の話し合いはされているが、事例検討を踏まえた具体策についてはこれからである。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉遣い・対応に心がけている。職員間の申し送りでは内容によって利用者様の名前を伏せて伝達するなどプライバシーに配慮している。	接遇マナーの研修の取り組みをされている。又、利用者のひとつの動作ごとの反応を窺いながらの対応を心がけられているが、日常生活動作のデリケートな部分への配慮が不足している。	日常生活動作支援が利用者一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保になっているか、業務の振り返りと意識付けの定期的な取り組みが望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを表しやすいような雰囲気作りを心がけ、希望の表出が難しい方に対しては簡潔な問いかけや選択肢から思いを汲み取ることができるようになっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲で、利用者様の要望に沿って生活を送っていただけよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧することが習慣であった方に対しては職員が化粧を行っている。髪型や服装なども本人の好みを重視したもので生活を送っていただいている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、個々人に合った食事を提供している。食後は利用者様に食器拭きを手伝っていただいている。	利用者の見守りの充実と職員のリフレッシュを考慮して、利用者と職員と一緒に食事されていない。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算・摂取量の記録・体重増減等をチェックしている。また、必要な方の水分摂取量を計測し、利用者様全員の水分補給には常時注意を払っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、確実に口腔ケアを実施している。自分でされる方に対しても、磨き残し等ないか確認を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導・おむつ交換を行っている。必要に応じ尿量測定し、随時Dr・Nsへ報告をしている。	夜間時の排泄支援が主ではあるが、見せていただいた居室の殆どにポータブルトイレが設置してある。利用者によっては尿量把握やトイレ誘導では間に合わないなどの理由もあるが、全ての利用者に該当はしていない。	

44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため水分摂取を促しているが、現状では薬剤での対応が中心であるが、個々の予防に対する取り組みにも努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回曜日を決まった曜日に入浴していただいている。好まれるお湯の温度や時間等、利用者様ごとに柔軟な対応をしている。</p>	<p>2ユニットある中の1階の浴室での入浴支援をされている。入浴拒否の利用者には言葉かけの工夫やタイミングを見計らって無理強いはならないよう努められている。又、できるところは自分で洗身してもらうことを基本に、希望があれば仲の良い利用者と一緒に入浴支援もされている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝・起床時間はできる範囲で個々に対応している。日中の臥床も含め、入眠パターンの把握に努めている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>用法・用量について理解し、服薬介助時にミスがないよう2重チェック体制を取っている。特に考慮を要する薬は服薬状況・本人の状態を介護記録に記入している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>以前からの趣味や残存機能を活かし、手作業・パズル・ゲーム等をしていただき、役割を持って生活を送られるよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>2~3ヶ月に1回は外出計画を立て、屋外に出掛けて気分転換を図っていただいている。</p>	<p>外出は無理でも外気に触れることの重要性を理解されている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が難しい方がほとんどであり、入所時に預り金としておこづかいを預かり事務所で管理している。欲しい品物は買物の日に職員が購入をし、行事で外出する際につかっていただくこともある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙を希望される方は現在おられないが、電話をかけたいとの訴えがあれば、職員が電話の取次ぎを行っている。入所者様の携帯電話の管理も行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>チェック表を作成し毎日の掃除を徹底している。テーブルやベランダに花を飾り、季節感を感じていただいている。</p>	<p>パズルなど利用者の興味のあるものを利用者の手の届くところに配置されている。また、一日の流れにあわせて利用者の動線に沿ったテーブル等の移動・配置の工夫がされている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>互いの関係性を考慮した座席の配置を心がけ、随時職員が間に入り、利用者様同士で楽しく会話していただけるようにしている。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた家具や着慣れた洋服を持ち込んでいただき、ご家族との写真や自分で描かれた絵画等を飾り、個人の特色を活かした心地よい環境づくりに努めている。	利用者の趣味や興味等も配慮した居室作りがされており、無造作に置かれた書籍や目覚まし時計、日用品等から利用者が安心して寛げる場所となっていることが窺える。又、利用者の心身の状態や動線を考慮した調度品等の配置がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様・ご家族・職員で話し合い、それぞれの心身レベルに応じた居室環境作り（目印の設置・危険防止のため障害物の撤去など）を行っている。		

アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>スタッフ全員で作った理念を毎朝の朝礼時に皆で唱和する事で日々理念を確認し毎日のケアに繋げている</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>外出・散歩時に地域の人々との日常的な挨拶、時候の挨拶などを通し、交流をしている。又ホームで開催する行事を通して交流をより深めている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近隣の方々に行事に参加していただく事で認知症の人の理解また、支援のあり方を実際に目で見て頂くことで理解と協力を得ている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の日々のケアの取組み等を運営推進会議で報告しそれについての意見・要望をケア会議で話し合い、スタッフ全員で改善にむけた取組みをしている。</p>		
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市担当者参加される為、事業所の実情・ケアの取組み等を積極的に伝えている又、意見等も取り入れ、ケアに繋げている。</p>		

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>勉強会、研修会への参加でスタッフの拘束をすることの弊害を理解し絶対にしないという意識をスタッフ全員で1つにし、取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会、研修会を通し学び、理解を深め、常に利用者様の変化、自分を含めスタッフの言動・行動に注意している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会などで制度について学ぶ機会を設け、職員の理解を深めるよう努めている。必要な利用者には地元の社会福祉協議会と連携して活用し支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約等の説明時には十分に行い、不明点がある場合は言って頂き、ご本人・ご家族に納得していただいた上で、契約の締結を行っている。また改定時にも詳しい説明と同意を頂いている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や家族の面会時に意識してコミュニケーションをとり利用者や家族にも要望を表しやすい関係作りを心がけている。また、直接よせられた意見・苦情に対してもすぐに対応し、スタッフ間で共有している。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月ケア会議を開催し、職員の意見や提案など言いやすい環境にあり、法人内労働衛生委員会設置し、環境改善に努めている。月1回の幹部会などで代表者が職員の意見を聞く機会もある。年に1回代表者との面談もある。</p>		

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人内で統一した個人評価表を代表者に年1回提出し、職員は自らを振り返り目標を立て、代表者は職員に意見を知ることができ、個々の努力や勤務状況を認め、希望部署への異動や研修へ参加させるなど向上心の持てる配慮をしている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員は力量や希望に応じ、必要な研修に年1回以上参加できるよう努めている。また、スキルアップの為法人内での勉強会を月1回開催している。GH協議会などの研修にも積極的に参加している。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者とは研修会等で情報交換したり、GH協議会での交流する機会は多く、ネットワーク作りや連絡体制作りや質の向上への取り組みに努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の事前面談において、生活状況、心身の状態、本人・家族の希望等を把握し、どのような支援が必要か本人や家族、職員とも話し合い不安なく利用して頂けるよう努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>本人・家族の不安・要望等に耳を傾け、どのような支援が必要であるかを話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前の本人・家族の面談等で状況を確認し、話の中からどのような支援が必要かを本人・家族と話し合い、他のサービス利用も含めた対応にも努めている。</p>		

18	<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>可能なことは出来るだけ一緒に 行い、生活の知恵を教えていた だく姿勢で接し、暮らしを共に する関係の構築に努めている。</p>		
19	<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人を支える精神的な面では家 族の絆がもっとも大切である 為、家族への負担も考えつつ、 協力を頂き共に本人を支えてい く関係を築いている。</p>		
20	<p>8 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人たちが大切にしてきた人々 や場所（以前いた所への訪問な ど）へのつながりなどを続けて いけるよう馴染みの場所などへ の外出支援や交流に努めてい る。</p>		
21	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、コ ミュニケーションを取りやすい よう配慮し職員が関わっていく 中で利用者同士がささえあえる 良い関係が築けるよう心掛けて いる。</p>		
22	<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設などに移られても互いに 行き来し、情報交換したりして 継続的な関係を続けている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	<p>9 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃から話を傾聴したり、表情 や生活の様子などから意向を汲 み取り、本人の希望に沿えるよ う努めている。</p>		

24	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>事前面談などから以前の生活歴やサービス利用の経過だけでなく、本人や家族との会話などからも過去の暮らしぶりを把握し、これからの支援に役立てている。</p>		
25	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の生活の中から現状把握すると共に介護記録や申し送りなどでスタッフ同士の情報交換を行い情報の共有と把握に努めている。</p>		
26	<p>10 チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族とのかかわりの中で意見や思いを聞き、必要に応じて見直したり定期的にケア会議（カンファレンス）を開いて介護計画の作成をしている。</p>		
27	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者の日々の様子や変化、気づきを介護記録に記載し、全職員が情報を共有でき今後の支援の実践や介護計画の見直し等に活かされるよう努めている。</p>		
28	<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>病院受診の際、家族の付き添いが難しいときには職員が付き添うなど、ご家族の事情で面会が出来なくなった時など、メールを通じてご本人のご様子が直接わかるように対応したり、本人や家族のその時の状況に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる</p>		
29	<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>交流のある近隣の保育園や学校、ボランティアの方に施設行事に参加して頂いたり、逆に呼ばれたり、日々の暮らしを楽しみ豊かになるよう支援している。</p>		

30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>併設の施設診療所の医師による定期的な往診のほか、協力医療機関の受診や以前からのかかりつけ医の受診も支援しており医療機関との連携をとっている。</p>		
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>診療所の看護師を通して、日々の気づき変化への相談等を行っている。常時診療所との連携がとれる体制となっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院時には本人に関する情報を提供し、定期的に訪問して本人の不安やストレスの解消に努め、早期退院できるよう病院関係者との関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化の可能性がある場合は診療所医師が本人や家族、職員、看護師を交え、今後の方向性や終末期のあり方などを話し合い、本人や家族の意思を尊重するよう努めている</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の協力のもと、研修や勉強会などを通じ応急手当や初期対応の訓練をしている</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導のもと定期的（年2回）に非難訓練を実施しており、近隣の方々には災害時の緊急避難場所としての施設提供や火災時の支援を呼びかけている。</p>		

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの人格を尊重誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。また、理念にも掲げて毎朝唱和している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表しやすいような雰囲気作りを心がけ、問いかけや選択肢から思いを汲み取れるよう努めている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れの基本を作り、その中で本人の希望や体調などに合わせ、個人個人を尊重した個性のある支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考え利用者と共に楽しく衣装選びが出来る様、その人らしい生活スタイルや意思を尊重した支援をしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査のもとメニュー表を利用者と共に考えたり、栄養バランスにも配慮している。また、職員は同席し、同じ食事を取り、食後も利用者と共に片づけを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算・摂取量・体重の変化等をチェックを行い、疾病に応じた食事量や水分量を個別で記録している。また、介助が必要な方は水分・栄養が確保出来る様支援を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの口腔状態が把握できるようにその人の能力に応じたケアを行っている。また、スタッフも口腔ケアの指導を受け技術力のアップに努めている。	

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、状況に合わせた誘導や介助を行い、出来るだけオムツに頼らない、自立にむけた支援に努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に食物繊維や乳製品を取り入れたり、水分摂取量にも注意し、便秘の予防に努めている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日を曜日分けしているが本人の希望や状態におうじて柔軟に対応が出来るようにしている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>1人ひとりの生活リズムを把握し、個々の希望や状況を配慮し、個別の支援をしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋をファイルに保管し、薬の目的や副作用等の内容を全職員が理解出来る様にしている。処方の変更があった場合には体調変化の観察と報告に努めている。</p>		

48	<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食後の片付けや洗濯物干しなどの役割意識を持ってもらえるよう心がけ、個人の買物への外出や趣味の支援を行い豊かな日々を過ごせるよう努めている。</p>			
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>出来るだけ本人の希望に沿って外出の支援に努めている。また、家族といっしょに買物や食事等に出掛けられている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る方に対しては家族の協力の得て、小額を所持して頂き、本人が必要時に使ったり出来るようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>年賀状や暑中見舞いのなどのやり取り、電話の取次ぎや本人自ら電話したり、家族や友人との関係をつなぐ支援をしている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じられるよう、季節や行事にあわせた飾りつけや行事の写真などを掲示している。また、テーブルやソファの配置を工夫している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにテーブルセットとソファを置き、気の合う利用者同士でくつろげるよう配慮している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族との相談の上、本人が居心地良く過ごせるよう、使い慣れた家具や好みのものを持ち込んで思い思いの配置にしたり、各個人が生活しやすい居室作りに配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は車椅子を自走し自由に動けるスペースを心がけ、通路に物を置かない等、安全な環境づくりに努め、各居室にも分かりやすい目印や表札をかけるなど一人ひとりの自立に配慮している。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の	
				2, 利用者の2/3くらい	
				3, 利用者の1/3くらい	
				4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある	
				2, 数日に1回程度ある	
				3, たまにある	
				4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が	
				2, 利用者の2/3くらいが	
				3, 利用者の1/3くらいが	
				4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と	
				2, 家族の2/3くらいと	
				3, 家族の1/3くらいと	
				4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない